



障がいのある方の地域生活支援

社会福祉子ども学科 社会福祉学専攻

高島 恭子 准教授

【研究分野】 障害者福祉、精神保健福祉

【キーワード】 障がい、地域生活、障害者権利条約

【URL】 <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=298taka>



研究概要

障がいのある方の地域生活支援に関する研究

どこで誰と生活するのかの選択の機会が確保され、地域社会の中で他の人々と共に暮らしていくことは私たちの誰もにとって普通のことであるはずです。居住、移転の自由や、「自立した生活及び地域社会への包容」（障害者権利条約第19条）は法等に明記されていますが、現実はどうでしょうか。障がいがあるとき私たちはどこでどのように暮らしたいのか、その生活を実現していくためには何をしていくのがよいのかなどを考えていきたいと思います。その上で、障がいの有無に関わらず、誰もが自分らしい暮らし方を選択する機会が確保されるための下位目的と手段、**道筋を示すことのできるロジックモデルを作成**します。

研究紹介

1. 国内の障害をもつ方々やご家族の居住（暮らしの場、暮らし方）に関わる願い、思いについての調査研究（聞き取り調査など）により、**あるべき状況と現状のギャップ**を把握する。
2. 国連障害者委員会に提出された各国レポート、市民団体からのレポート、国連障害者委員会から出された一般的意見、障害者権利条約指標を手掛かりに、障害をもつ人の居住（暮らしの場、暮らし方）に関わる**国際動向、方策などを整理**する。
3. 居住（暮らしの場、暮らし方）に関わる選択の機会を確保し、選択肢を地域社会に具現化するための**ロジックモデル**を作成する。
4. 自分らしい暮らしを思い描き、伝える／受け止めるための**意思決定支援プログラム**を開発する。

講座テーマ紹介

- 「障がい」とは何か考え理解を深める講座
障害の構造と障害者福祉に関わる理念、精神保健福祉、合理的配慮についての背景、理論、事例など
- 対人コミュニケーションを考える講座

アピールポイントなど

自治体の保健福祉審議会委員、長崎県精神保健福祉士協会理事などをさせて頂いて参りました。また、市にて行われる精神保健福祉に関わる意識向上のための事業や長崎県手をつなぐ育成会の「障害のある人の権利擁護・意思決定を支えるための推進会議」事業への参加を通し、地域社会全体に働きかける活動を行ってきました。その他、日本ソーシャルワーカー協会理事（国際委員）として海外のソーシャルワークを日本に紹介したり、国内外の多文化ソーシャルワークに関する調査研究に参加したりしています。